

折に触れ 四字熟語

NO. 20 『無中生有』 むちゅう しょうゆう

< 意味 > 無の中に有を生ずる。

< 出典 > 「兵法三十六計」<第七計>

『無中生有』

解『誑也。非誑也。実其所誑也。少陰、太陰、太陽。』

読み下し： 無中に有を生ず。

通 釈： 無の中に有を生ずる。虚を実に見せかけ、敵の判断を狂わせる。

読み下し： (解) 誑あざむくなり。誑あらくに非すこざるなり。其の誑く所を實じつにするなり。少しく陰、太はなはだ陰、太はなはだ陽なり。

通 釈： (解) 無いのに有るように見せかけて敵の目をあざむく。しかし、最後まであざむきとおすことはむずかしいので、いずれ無から有の状態に転換しなければならない。要するに、仮のかたちで真の姿を隠蔽し、敵を錯覚におとし入れること。

一 言： 「China 2049」シリーズその5

「China 2049」の第5章に引用されている「兵法三十六計」の四字熟語です。なお、この四字熟語は著作の第6章、「兵法三十六計」二十九計の『「樹上開花(じゅじょう かいか)」もともと花のない樹木が花を咲かせているかのように見せかける。』に類似しています。

参照文献： 守屋洋著「兵法三十六計」湯浅邦弘著「孫子・三十六計」